平成２５年度研究成果報告書≪平成２５年度教育課程研究指定校事業≫

都道府県・指定都市番号	1	都道府県・指定都市名	北海道
ふりがな **学校名** （児童数）	ほっかいどうきょういくだいがくふぞくはこだてしょうがっこう 北海道 教 育大学附属函館 小 学校 （444 人）		

（本研究に係る問い合わせ先）

所在地：北海道函館市美原３丁目４８番６号

電話番号：０１３８－４６－２２３５

研究内容等を掲載しているホームページの URL：http://www.hak.hokkyodai.ac.jp/~f-shog-m/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：２小学校

○研究対象教科等：生活科

○研究のキーワード：内容（８）「生活や出来事の交流」，年間指導計画，単元のデザイン，一単位時間における配慮事項，

○研究成果のポイント：生活科の学習に新しく位置付いた内容（８）「生活や出来事の交流」の 2 年間を見据えた年間指導計画の在り方を示すとともに，内容（８）の実践授業をタイプ別に分けることで指導法を確立した。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

生活科の内容（８）「生活や出来事の交流」の単元化と指導法の研究 ～子供が思いや願いを伝え合い，協同的な関係を築き上げる～

（２）研究主題設定の理由

本研究は，平成２４年度の指定研究での知見をもとに，以下の二点に焦点を絞り，内容（８）「生活や出来事の交流」の指導の在り方の探究を目的とする。

① 年間指導計画への明確な位置付け方
子供の発達段階を考慮し３つの期間を設定する。そして，それぞれの期間の特性に照らし合わせた相手を選定し交流を行う。

② 単元及び一単位時間における指導法の確立
子供の発達段階を考慮し交流に際して，教師の支援を直接的なものから間接的なものへと変容させていく。

（３）研究体制

校内体制

○ 研究部を中心とした先行研究・先行実践の調査

○ 低学年ブロックを中心とした授業実践と検証

校外体制

○ 函館市生活科・総合的な学習教育研究会との研究交流

○ 北海道教育大学附属小学校（札幌・旭川・釧路小学校）との研究交流

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	○ 内容（８）を重視した生活科の先行実践の研究
	○ 内容（８）で育まれる子どもの姿をより意識した指導法の開発と実践
	○ 日本生活科・総合的な学習教育学会における提言発表（昨年度の研究）
	○ 本校研究大会における授業実践と検証作業
	○ 函館市生活科・総合的な学習教育研究会との合同研修
	○ 内容（８）で単元を構成する学習の年間指導計画への効果的な位置付けの検討
	○ 内容（８）で育まれる子どもの姿をより意識した指導法の開発と実践
	○ 教科調査官を招聘した授業実践及び研究協議

○　発表資料の作成
○　研究のまとめ

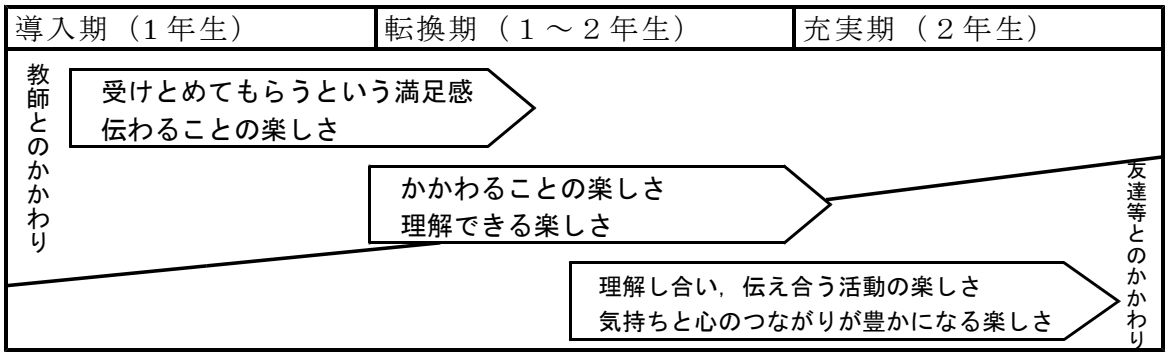
（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①　内容（８）を中核とした年間指導計画例を作成
②　内容（８）を重視した生活科の単元デザインの開発と支援策を分類
③　一単位時間における配慮事項を明確化

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

①　年間指導計画への子供の発達段階を考慮した位置付け方



②　内容（８）の位置付け方とかかわり方

Aタイプ：他内容の学びを単元後半まで行い，最後で交流として内容（８）が展開
Bタイプ：単元導入時に他内容の学びを行い，その後内容（８）を中心に学びが展開
Cタイプ：単元内に繰り返し他内容から内容（８）というかかわりがスパイラルする
Dタイプ：単元のすべてが内容（８）

Ⅰタイプ：他内容の出来事を伝え合うという内容（８）のかかわり方
Ⅱタイプ：内容（８）が求める伝え合う活動が他内容に内包されているかかわり方

＊Ａ～ＤタイプとⅠ～Ⅱタイプをマトリクスで，「他内容重視型」「内容（８）重視型」「互恵型」に分類することができた。

③　一単位時間における配慮事項の明確化

導入期：教師と子供が直接かかわるような支援や子供同士をつなぐ支援
転換期：子供同士の直接的なかかわりを下支えしていくような支援
充実期：子供同士が直接かかわる必要の生まれる場面設定や場の確保

（２）研究成果の意義等

①　表現の質的・量的変容

子供のかかわりを振り返る表現活動が，断片的であったものから，段階を経て，時間軸や空間軸というようなつながりを意識した表現へと変容していった。

②　意欲的なかかわりへと変容

子供がもともともっていた他者への興味が本研究における支援により，強く刺激され，高まり，進んで交流していくようになった。

③　コミュニケーションツールの適切な選択と適切な利用

相手が誰であるのかという意識や，どのような相手であるからどのような内容を伝えてもよいかという意識が成長した。

（３）指定期間終了後の取組

○　生活科の内容（１）～（９）の実践と内容（８）のかかわり方を実践レベルで整理・分析し，効果的な内容（８）が育む能力や態度の育成モデルを確立する。
○　現在の研究を継続的に実施し，子供の適切なコミュニケーション能力の育成の検証及び改善。